

■ 編 集 委 員

菅澤 正 (編集委員長)

池淵 研二 小林 国彦 小山 勇 篠塚 望 千田みゆき 名越 澄子 仁科 正実
堀江公仁子 町田 早苗 松下 祥 Chad L Godfrey (五十音順)

■ 編 集 後 記

長雨の続く中、皆様いかがお過ごしでしょうか。COVID-19による、非常事態宣言が解除され、徐々に正常化されるかと期待しておりましたが、無症状者が多いとはいえ、陽性者が激増し、予断を許さない情勢です。地方から観ると、東京、埼玉などの首都圏は、COVID-19が蔓延して、近づきたくないとのこと。医学界にも大きな影響を与えております。私の専門である耳鼻咽喉科でも、専門医試験は東京開催をあきらめ、地方で分散開催、専門医受験に必須の講習会も地方の参加者からの強い要望で、WEB開催となりました。東京に住んでいる者にとっては、日常生活は平穏で、マスコミなどの対応にギャップを感じています。多くの学会が開催延期或いは中止となり、漸く開催にこぎ着けてもWEB開催を余儀なくされております。会場でのやりとり、その後のオフレコでの議論などの機会が失われ、我々の年代には、WEB開催を物足りなく思っている者は多いと思います。一方で若手の医師に意見を聞くと、出張する手間も省け、必ずしもWEB開催を否定的にとらえておりません。講義も同様で、学生の不在の教室で、一人ぼそぼそしゃべっていると、手応えがなく、伝わっているか不安に成ってきます。ZOOMなどを使用した会議でも、body languageが伝わらず、微妙なニュアンスを伝えきれず、議論が平板化してしまうようです。しかし、通信の5G化などの進展で今後社会生活のあらゆる面で、よりネットワークを利用する方向に移行するのは必須で、医療も学会等の学術活動も対応した変化が必要です。コロナ禍はその一つの機会を与えてくれた気がします。梅雨明けと共にCOVID-19も一掃されることを祈っておりますが？

さて、47巻1号は原著論文1編、症例報告1編の他、研究マインド支援グラント報告3編です。又、埼玉医科大学の研究サポート体制の現状を、医学研究センター報告としてまとめていただきました。COVID-19の影響でほとんどの学術集会が中止となったため、特別講演は1稿だけとなっております。今後も埼玉医科大学の臨床、研究の発展のため、埼玉医科大学雑誌を利用していただきたいと思います。

最後に長年にわたり、編集委員として貢献いただいた渡辺修一教授〈生理学〉の定年退職に伴い、新たに堀江公仁子教授〈ゲノム応用医学〉に編集委員に就任いただきました。

(菅澤 正)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第47巻 第1号

編集責任者 菅澤 正

令和2年8月16日 印刷

令和2年8月31日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作 レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の5 電話 (082)844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>